

すま しょうがいしゃ ちいきせいかつ しえんせんたー つうしん
すま障害者地域生活支援センター通信 第6号

まちのかぜ

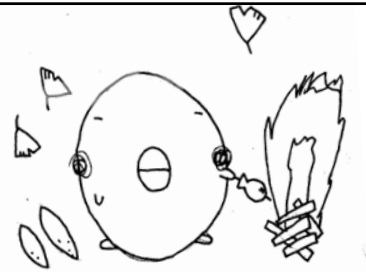
発行:平成18年10月1日

〒654-0023 神戸市須磨区戒町3-5-1

E-mail : shien-center@suma-shakyo.or.jp

☎078-735-3833/FAX078-735-3834

URL : <http://suma-net.org/>



- 巻頭所感『ゲール…癒しのまち』……………1
 こころの病を考えるシリーズ vol.2
 「精神障がい」ってどんな障がい?……………2
 作業所探訪 vol.4「ワークホーム須磨」……………3
 10月のまちかど情報《講座・ギャラリー》……………4
 イラスト 松本絵里奈(垂水養護学校部)

『ゲール…癒しのまち』

すま障害者地域生活支援センター
所 長 瀬 戸 昭

いつか東洋大学の伊藤隆二先生から聞いた話である。

ベルギーのゲールという農業のまち。まちの中央に古い教会があり、国立病院が建っている。ヨーロッパ中の人が礼拝に集まってくる。ゲールのまちの人は、自分の家に病人を泊める。3000人の人がゲールのまちの普通の家に宿泊している。

伊藤先生が国立病院の院長に質問する。「素人の人が精神病の人を泊めていいのか？ まちの人は差別しないのか？」

院長「いっしょに暮らすのに病名も病歴も一切必要がない。**たいせつなことは、その人の生命、存在、価値だけを認めること**」



絶望の淵に立った人が、自分を取り戻し、心を開いてくる。献身する喜び。与える喜び。まちの人は30才になったら、何の疑問もなく病人を招く。そして350年それは続いている。こんな上品な**癒しのまち**を見たことがない。ここ100年、犯罪はいっさい起きていない。



障害者自立支援法の施行により、当センターは18年10月より、ヨハネ地域生活支援センターと連携して、3障害の相談支援センターとして再出発をします。お互いに、それぞれの人の生命、存在、価値を認め合い、たいせつにしながら歩いていきたいと思ひます。今後ともお気軽にご利用くださいますよう、よろしくお願ひいたします。



こころの病を考える シリーズ vol.2



「精神障害」ってどんな障害？

奥山 基子（神戸医療福祉専門学校 副校長）

「センター通信第4号」で精神障害の人がエンパワメントし、回復していく過程が紹介されていました。この人は専門職の援助によって心を落ち着かせることができ、持っていた能力を発揮し、自信を回復していったと考えられます。

エンパワメント

その人が持っている本来の「力」を発揮すること。

また、外的・内的に抑えつけられた「力」を取り戻すまでの経過をさす。

これまでの長い間、精神疾患が医学的に未解明であったことから、一般に治らない病気と思われ、障害の人が世間で誤解されることがしばしばありました。しかしながら近年、精神病は脳の疾患と考えられ治療薬も開発され、回復する病気となりました。そして、障害者基本法によって障害と規定されました。

でも、精神障害はまだまだ分かりにくい障害ではないでしょうか。そこで、精神障害をできるだけわかりやすくすることにチャレンジしてみました。精神障害の人を理解する手立ての一つに使ってください。



精神障害は、病気の状態が生活のすべての部分に影響を与えます。その影響は、日常生活、対人関係、就労・作業等の場面に顕れます。各場面で顕れる状態をみてみますと・・・

日常生活では 不安や取り越し苦労によって物事への取り組みが消極的になりがちです。また、環境や状況の変化に弱く、その場に適時に対応しにくいことが多々あり、不安が蓄積されます。そして、多くの選択肢の中から一つを選ぶとか、何かを決断することが苦手な動揺することがたびたびです。

対人関係では 他人に緊張し、ぎこちない対応になりやすく、コミュニケーションが難しくなります。また、関心や注意を持てる範囲が狭いことから、挨拶や気配り、配慮に欠けスムーズな関係を築けない状況に陥ります。さらに、精神障害の人は適宜にごまかす、秘密にする、断るといった処世術ができないため社会生活が負担になりやすく、疲れを感じます。

就労・作業では 集中力や持続が弱まり、長時間の作業に耐えること難しくなります。そして、手順や段取りが複雑であれば覚えにくく、作業のスピードも低下します。

精神障害にはこのような特徴が生じる傾向にあります。しかも、精神障害の人は若くして発病した、症状で自閉的になった、療養に長時間を要した等から社会経験が不十分で、社会生活を失敗し、自信を失いがちといった状況が重なることがしばしばです。精神障害の特徴と病気から引き起こされる状況は、「生活のしづらさ」となって生活全体に影響を及ぼしています。

しかしながら、精神障害の人にも沢山の健康な部分があります。ですから、周囲の人が病気を理解したうえで、コミュニケーションをとり、健康な部分を見つけ良いところを認める等、支えることによって、安定を維持しやすくなります。

そして、個人個人への生活のしづらさについての支援があれば、病気を持ちながらも希望の生活の実現に向かって、その人なりの生活を営んでいけることが可能になるといわれています。

すま地域生活支援センターを核として、精神病と精神障害への理解が広がることを願っています。



小規模作業所探訪 vol.4

ワークホーム須磨

第4回目は、「ワークホーム須磨」をご紹介します。

歩み 「ワークホーム須磨」の前身は、平成2年に立ち上げられた「ワークホーム兵庫」(兵庫区塚本通7-3-4)です。知的・身体の障がいのある方の働く場としてスタートしました。最初は、軽作業をしていたのですが、「しあわせの村」のホテルに「瓦せんべい」を置かせてもらえることになり、客室用とおみやげ用の「瓦せんべい」を焼くようになったのです。そして、そこが手狭になったので、平成5年2月に太田町のプレハブ住宅で「ワークホーム須磨」を開設。震災でプレハブ住宅が全壊したため、代表者大杉俊江さんの自宅を借り、現在の家で再出発したのです。兵庫で製造、須磨で販売と役割を分担しています。

紹介 三の井橋バス停のすぐ東のバス停のすぐ東の道を北に上がったところの2階建て住宅が「ワークホーム須磨」です。登録利用者さんは6名。みなさんよほどの用事がない限り休みません。障がいの種別は様々です。女性5名、男性は1名。

朝10時から、まず5分ほどミーティングをしてすぐ作業開始。12時から30分の休憩です。お昼はみなさんお弁当持参。楽しみは隔週で月2回ある調理の日。事前に希望を出し合い決めたメニューで、神吉さんが食材を準備し、11時から調理スタート。役割分担をしながら神吉さんのアドバイスを受けて全員で作ります。今日がちょうど、調理の日。メニューはカツ丼でした。片づけが終わって作業の再開が午後1時。調理の日以外が12時半からまた作業。



2時から15分のティータイムの休憩をはさんで、3時15分まで頑張ります。そして3時半に「ワークホーム須磨」でのお仕事が終わります。

作業内容は「瓦せんべい」の包装・箱詰めが週2回。その他の日は軽作業で手さげ紙袋の組み立てや、封筒などへの点字の刻印を行います。

利用者の方の声 紙袋の組み立て作業をしているみなさんにお話を伺いました。みなさん、わきあいあいとした雰囲気、突然のインタビューに笑顔で答えてくださいました。「結構冗談言うたりしながら、楽しく仕事をしています」「男は僕一人ですが、あんまり淋しくない。結構楽しいです」「すごい、楽しい。カツ丼美味しかった」。お給料の使い道は、「本を買ったり、お母さんを助けています」「好きなアイドルのCDや胃腸薬や目薬を買っています」なかには、こんな方も。「犬を飼っています。えさ代や病院代、美容院代を私が出しています」。

みなさん、お仕事中にインタビューに答えてくださってありがとうございました。とても、居心地が良かったです。読者の方々「瓦せんべい」とっても美味しいですよ。

自立支援法が施行されて 障害者自立支援法が10月から本格施行されます。「ワークホーム須磨」の今後を神吉さんに尋ねました。「『地域活動支援センターⅢ型』への移行を考えているのですが、定員要件が10名以上となっているので。この建物では10名は無理です。兵庫と一緒に新しい場所も考えているのですが。その場合は、もちろん、利用者さんの意向を聴いてと思っています。」とのことでした。



9月15日の神戸新聞朝刊に、「兵庫県が5名以上の作業所にも補助継続」との記事が掲載されましたが、神戸市はどうなるのでしょうか？

(HP <http://workhome-suma.jp/index.html>)

住所 〒654-0024 須磨区太田町7-3-21 電話・FAX 795-4078

10月のまちかど情報

第9回 いたやど・まちかど講座

『こころの病を考える』～地域で共に生きる～

お 話： 奥山 基子さん (神戸医療福祉専門学校 副校長)

と き： 平成18年10月21日 (土)

14:00～15:30

と ころ： すま障害者地域生活支援センター

(地下鉄板宿駅 南④出口徒歩2分)

定 員： 20名

申込み：TEL 735-3833

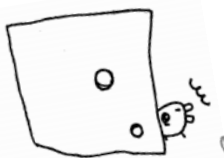
FAX 735-3834



まちかど・ギャラリー

『和布遊び』 橋爪 今江個展 ～懐かしきと愛らしきを貴方に～

「ちりめん」「かすり」といった、和布を使った小物の作品展です。橋爪さんがひとつひとつ、楽しみながら作りました。和布がもつ温かみと懐かしさ。橋爪さんの人柄が伝わる愛らしい作品の数々。お楽しみください。

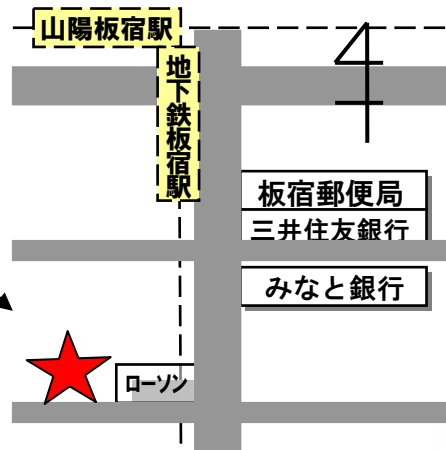


期間：2006年 10月19日 (木)～10月25日 (水)
場所：すま障害者地域生活支援センター
時間：9:00～16:00



すま支援センターの事業内容

- * 地域生活に必要な制度やサービスの情報提供や、利用のお手伝い。
- * さまざまな内容のご相談の受付。
- * 自立支援法の相談・受付・調査。
- * ピアカウンセリングの実施。
- * 障害児を持つ親へのカウンセリング
- * 地域啓発事業の実施
(まちかど講座・まちかどギャラリー)



編集後記

暑く賑やかだった夏も終わり、涼しく心地よいでも、どこか寂しい気持ちになる秋になりました。季節の移り変わり同様、めまぐるしい変化が日々ある中、ひとりひとりが懸命に生きていると感ずます。しんどいときは皆で支えあいながら、笑って毎日を過ごしたいですね(T)

